



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
11月27日
発行

第64回 「格言で考える大統領選相場」

初めに

大統領選が終わりました。トランプ大統領はまだ粘ろうとしていますがここまでは来るとさすがに無理でしょう。今後のバイデン次期大統領とハリス副大統領が期待されます。ところで自分は株式相場の格言に関心があり、それっぽいものを作ることもあります。今回の大統領選相場においては格言を応用できる場面がいくつかあったので、今回はそうした場面と相場格言を紹介します。

閑散に売りなし

「閑散に売りなし」は自分が好きな格言の1つです。「閑散は買い」でなく、「売りなし」というところが気に入っています。意味は大相場の後、凧の時は他の投資家が保有株を売り切っているような状態なので、売ってはいけない、というものです。今回の相場で10月途中まで閑散だった日経平均は、選挙が近づくに連れ急騰しました。閑散に売りなしの好例と言えます。

保合い放れに付け

「保合い放れに付け」も好きな格言です。保合い相場が崩れて上下いずれかに方向性が出る時は、上に放れれば買い、下に放れれば売り、最初の方向に従うというものです。保合いの間にエネルギーが蓄積されており、いったん動き出せば大きな動きになるとの考えです。今回も日経平均は10月途中に上昇に転じた後、なかなか勢いが止まりません。

押し目待ちに押し目無し

今回早い段階でこの相場に乗れず、押し目を待っているものの、なかなか来ないという方は多いと思います。自分の経験では押し目買いはそれほど効果がなく（買えないか、買ってもそれほど安くは買えない）買うなら買えそうな値段で買うのが良いと思っています（個人的意見です）。以前当レポートでは年内日経平均30,000円を予想しました。30,000円達成のためのカギを握るのは押し目待ちをされていてここまで日本株を買っていない投資家がどの程度いるか、ということになるかと思っています。買っていない投資家が多ければそれだけ30,000円の可能性が高まります。特に海外の投資家は毎年初めに向けてポートフォリオを構築するのでそうした外国人投資家の買いも期待できると思います。

強気相場は悲観の中で生まれ、懐疑の中で育ち、楽観の中で成熟し、

陶酔の中で消えていく

ところで足元の日本株は連日の様に上昇していますがこうした状況を戒める格言もあります。それが米国のカリスマ投資家ジョン・テンプレトンの格言です。この格言は投資家心理の循環を4つの局面に分けて論じたものです。こうした状況を見るとやや警戒が必要な局面に入りつつあるようにも感じられます。この点も頭に入れておくことも必要でしょう。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あつせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。